

2 目 標 達 成 計 画 (平成29年度)

事業所名 グループホーム神苑

平成29年3月31日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	36	一人一人の尊厳とプライバシーを考えた言葉かけや対応に欠けている。 言葉づかいや対応等において、不適切なケアと思われる場面がある。 例) 赤ちゃん言葉、排泄時の配慮に欠けた言葉等	①利用者に対する言葉かけに配慮が欠ける時があり、人生の先輩であることを念頭に対応する。 ②排泄時の声掛等において、プライバシーの確保をもって対応する。	毎月、ユニットごとのカンファレンスや全体ミーティングにおいて、尊厳やプライバシーについて、日々の振り返りをし、チームとしての対応について考える。	12ヶ月
2	49	個々にあった外出支援に努めてはいるが、いまだに偏りがある。ADLの低下された利用者への外出が、歩行の安定された利用者 비해少ないという現状がある。	①日々の中で、利用者の身体状況に応じた外出支援を行う。 ②車椅子利用の方の外出の機会を増やす。苑庭での外気浴や茶話会、近隣の公園等への日常的な外出を行う。	利用者の外出状況が全職員にわかる様に、一覧表を作成し、外出の少ない利用者へ積極的に外気に触れて頂くよう努める。	12ヶ月
3	35	昨年の熊本地震を経験し、災害時の対応に不安を感じる職員が多い。	地震、風水害や火災等の想定をした避難訓練を定期的実施し、災害時の対応についての訓練を通し学ぶことで、災害時への速やかな避難や職員間の連携確認を行う。	火災以外を想定した、様々な災害による避難訓練の実施をする。訓練実施後に反省点など全職員間で共有。 訓練日に参加出来なかった職員へ対しては、個別に防災管理者より訓練の内容等指導する	12ヶ月
4	40	食事を楽しんで頂ける様に努めてはいるが、利用者の活躍の場面等を家族へ周知する工夫に欠けている。	職員、利用者と一緒に食への関わりを継続し、利用者の有する能力を活かしての、活躍や貢献の様子を家族へ周知する	利用者との共同での食事準備の様子や、作成したお品書き等、利用者の活躍の場面を、ホーム便りに掲載する。また、掲示板を設け、活躍の場面や行事食を映した写真等を掲示する	12ヶ月
5	39	終末介護の経験がない職員が半数以上はおり、経験値と知識不足による重度化や終末の対応に対して、不安がある。	終末介護において、利用者及び利用者家族を支えるべき職員の終末介護に伴う不安軽減への取組みを行う。	カンファレンスの場で、職員間で終末介護に対して話し合う 不安と思われる要因1つ1つに解決策を検討する。 内部及び外部での終末介護の勉強会へ参加し、得た知識を職員間で共有する	12ヶ月

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。